

「聴覚・言語障害のある方」って？

外見からは
障害が分かりにくい

補聴器を使っている方もいますが、一見ただけでは分かりにくい障害です。

視覚を中心に
情報を得ている

音声情報が得にくく、文字や図などの視覚による情報も入手しています。

声を出して話せても
聞こえているとは
限らない

声を出して話せる方もいますが、相手の声が聞こえていない場合があります。

補聴器をつけても
会話が通じるとは
限らない

補聴器で音を大きくしても、会話だけが明瞭に聞こえるわけではありません。

障害の種類や程度もさまざまです。

全く聞こえない「ろう」の方や聞こえにくい「難聴」の方がいます。また、言語障害を伴う方とほとんど伴わない方がいます。喉頭や発声器官の損傷による音声障害という障害もあります。

コミュニケーションの方法も人それぞれです。

補聴器だけでは十分に聞こえない方は、手話、指文字、筆談、唇の動きを読む口話・読話などを併用しています。失聴時期や生活環境により、コミュニケーション方法が異なることを知っておきましょう。



「聞こえない、聞こえづらい方」、
「話せない、話しづらい方」は、こんな事で困っています。

コミュニケーションが
うまくとれない

行員が説明していることが分かりづらく、自分が伝えたいことがうまく通じません。もどかしさからイライラしたり、聞き返すことをためらったりすることがあります。また、耳からの音声だけを頼りとする、通常の電話やインターホンではうまくコミュニケーションできません。



自分が
呼ばれたことに
気づかない

順番待ちの番号を音声だけで伝えられても、自分の番号だと分かりません。また、名前でも呼ばれる場合でも同様です。



周りの状況が
分かりづらい

後ろから声をかけられても気づきません。また、非常ベルや自動車のクラクションなどにも気づかないため、危険な目にあうこともあります。



では、聴覚・言語障害のある方にはどのように接すればよいのでしょうか？

